

令和元年度 第3回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日 時】 令和元年 12 月 12 日（木） 13 時 00 分～16 時 00 分
- 【場 所】 飛騨市役所 西庁舎 3 階 大会議室
- 【出席委員】 全委員 15 名中 出席委員 11 名
- 【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 十松会計管理者 泉原総務部長
柚原市民福祉部長 大坪環境水道部長 青垣農林部長 清水商工観光部長
谷尻教育委員会事務局長 青木基盤整備部長 野村議会事務局長 佐藤病院管理室長
中畑消防長 野村河合振興事務所長 田之下宮川振興事務所長 森神岡振興事務所長
(17 名)
- 【事 務 局】 御手洗理事兼企画部長 柚原総合政策課長 土田係長 井口主査 砂田主任（5 名）
- 【傍 聴 者】 2 名
- 【会 次 第】 1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 協議事項
① 飛騨市総合政策指針（素案）について …… 別紙①
② 飛騨市総合政策指針（検証指標）について …… 別紙②
③ 令和 2 年度主要事業の概要（案）について …… 別紙③
④ 自由討議
5. その他
6. 閉会

【議事内容】

1. 開会

司会【御手洗理事兼企画部長】

令和元年度第 3 回飛騨市総合政策審議会を開催する。

協議事項以外の部分は理事兼企画部長の御手洗が進行を務める。

本日は 4 名がご都合により欠席であるが、委員 15 名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第 6 条の規定により定足数に達していることを申し上げる。

2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度 3 回目となる。

今回、大きなテーマは飛騨市総合政策指針の素案についてご議論をいただくことと、現在議論中の令和 2 年度主要事業案について、ご議論をいただく予定としている。

総合政策指針は、先般市議会でもご議論いただいたが、本日の審議会でのご意見を踏まえ、1 月にパ

ブリックコメントを実施し、最終的には3月にまとめ4月からという形になる。その意味でも皆さまのご意見を盛り込んでいただく大事な機会。

また、令和2年度の主要事業についても、今現在の検討過程をお配りしている。これから予算査定をして、最終的に総枠に収めていくが、皆さまからのご意見を踏まえ当初予算を作り上げていく。

総合政策審議会は3年間続けてきた。委員の任期は3年としているので、今回が最後となる。また、改めてお願いをする方もあるかもしれないし、旧4町の地区の代表や高校生に何らかの格好で関わっていただけないかなど、新しい体制は考えていきたいが、いずれにしても十分ご意見をいただきたい。

3. 会長挨拶【会長】

あっという間の1年だった。前回、災害がなければいいかと話をしていたが、幸い岐阜県はなかったが長野、東北、北関東など災害が発生した。いつ我が身になるかと感じている。

総合政策審議会は、今年3回目となる。それぞれ現場からのご意見をいただくことで、私自身も勉強の場と思っており、色々なお話を伺いたいと思っている。

4. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①・②について事務局の説明を求める。

【土田係長】 別紙①・②について、説明。

【会長】 別紙①・②について、ご意見ご質問をいただきたい。

【会長】 将来像の「楽しく」という言葉が、あまり市の政策に入ることが無く、とても良い。また、「挑戦と前進」失敗を恐れず改良を重ね積極果敢にチャレンジし続ける市政、いいと思うことはとにかく実践する。前向きな気を市全体で共有する。これも素敵である。

【E委員】 「連携」ではもうダメだと思う。共有、一緒にやっていないと。これから5年あとにはやっていけない。地域の団体と市が積極的に関与していかないと絶対ダメだ。これからは何をやらなければいけないかというように発想を変えて具体的にやっていないといけない。商工会でもそうだが、行政と一緒に計画を立てるよう国からも指示が出ている。つまり連携ではなく、完全に共有して一緒にやっていくという姿勢を出していただきたい。これから5年間、市の関与をしっかりしていただきたい。

【都竹市長】 26 ページに連携とまちづくりと書いてあるが、共創による連携型の市政と書いている。ここがポイント。連携は強みの持ち寄りと弱みの補い合いと考えており、お互い主体にやることをどう組み合わせるのかというのが連携であるという考え方。共同といってもいいが、共創という何か創り上げるという思想でやりたい。その意味では委員がおっしゃられるのと意図的には変わらないが、連携はそのように捉えている。主

体の強み弱みの組み合わせというイメージでいる。

【H委員】 第7章の検証指標の商工観光分野について。カミオカラボがリニューアルされたと思うが、出来たから良いのではなく、もっと良い展開をしていくように。せっかくお金をかけたのだから。

【都竹市長】 まさしくその通りで、一番そこが大きなテーマ。ガッタンゴーの次にカミオカラボ。カミオカラボと国の名勝指定を受けた江馬氏館跡をどう組み合わせるかを考えている。もっと要素があり、神岡のまちづくりを考える会からもレポートをもらっており、次は神岡城や鉱山資料館がテーマとなる。町の中では、深山邸の活用だとか、立ちだるまやだるまコレクションをどうするのかなどがテーマ。次々掘り起こして、周遊というか、いろんなところを楽しんでもらうというテーマでやっている。カミオカラボで終わりではなくで、第2、第3と考えている。

【A委員】 第5章の政策の方向性について、具体的にわかりやすく書いてある。46 ページの誇りの持てる飛騨市づくりの中の飛騨市学園構想の推進の中で、部活動や学校外での活動支援の推進ということで、部活動指導体制の強化を推進するとあるが、部活動は、スポーツの強化だけでなく、生徒指導の点からも大変重要だと認識している。教員と外部指導員との連携、外部指導員をどう選ぶかをしっかり見据えて指導体制の強化を図っていただければ、保護者も生徒も安心できると思う。小学校から中学校、スポーツ少年団等から部活動への連携を図っていただき、9年間を見越したスポーツの在り方を共有していただければ、安心できると思う。

【沖畑教育長】 部活動は大事な指導分野であることは認識している。部活指導員を増やしながら教員の負担を軽減しようとしている。十分にその意義をご理解をいただける方をお願いしている。小学校から中学校への繋ぎだが、子どもの数が減っており部活動が存続できないという状況もあることから、学校間を繋ぐという手法も模索しているところ。中体連のこともあることから県と一緒に考えている。

【C委員】 目指す将来像の「みんなが楽しく心豊かに暮らせるまち」は素晴らしいと思う。住んでいてワクワクしてくる町になったらいいなとずっと考えている。その中で、「一人ひとりの頑張りを応援し互いに尊敬しあえるまち」というところで、小さなまちづくり応援事業などで色んなことをやっている団体を応援されているが、一般の市民の方々の活動と観光が組み合わせられるといいと思う。先般、ひだプラすの「まちづくり大賞」を決めるということで、イベントに参加させていただいたが、団体が多すぎて時間の制約もあり決めきれなかった。広報ひだでも毎月団体紹介が掲載されているが、細かすぎて何をやっているかわかりづらいと感じた。もう少し伝わりやすい内容だとよい。ひだプラすの役割が発揮できる仕組みと、それに対する市の関わりを強くしていきながら、市民の団体をしっかり応援する仕組

みが出来れば。更にそこに観光の要素が加わるとよい。

【会長】 一生懸命頑張っていることを広く知られていないということか。

【C委員】 たくさん出してくださっているが、今ひとつ周知が弱いと感じる。

【会長】 紙媒体じゃないものとか。

【C委員】 紙媒体でもよいが、広報の見せ方とか表現の仕方を考えてもよいかなと。まちづくり大賞を決める際も、広報ひだのコピーをいただいたが、細かすぎるのと時間があまりなく見られなかった。

【都竹市長】 47 ページの「まちづくり活動を発掘し、広く周知するとともに、互いに応援し合える環境整備」というのは、まさしくその部分だが、手法としてまだまだ確立できていないと考えている。共同通信が実施されている地域再生大賞というものがあり、加盟している新聞社が、自身の県内のまちづくり団体を推薦し、大賞などを決めるというものがあり、飛騨市のまちづくり大賞も、そのような試みができないかと考えたもの。ノミネートされると新聞記事として、全国に配信される。委員が言われるとおり、広報ひだに掲載されているだけではわかりづらいのは事実である。こうしたものがまとまって冊子になるといい。CATV や Youtube で番組を作ってみるなどもあるかと思うが、まずは、ひだプラスに手法を含めて考えてもらいたいと思っている。

【会長】 岐阜市ではケーブルテレビが作った動画を Youtube で見れるようにされている。工夫はいるかもしれない。

【C委員】 小さなまちづくり応援事業のプレゼンの発表会についても、聞きに来る市民が最初の頃と比べると確実に減っている。団体を応援する人たちがとりあえず来ている感じがする。考えてもらえれば。

【都竹市長】 今回の市議会一般質問でもお話があったが、小さなまちづくり事業は見直しを検討している。申請時のプレゼンテーションによりその活動を知って市民が審査する仕組みが良かったがマンネリ化する。どういったリニューアルがいいのか議論しているところ。プレゼン方式は高い評価をいただいているが、発表の仕方をどういった場所でどうするのかなど色んなことを検討している。

【会長】 別紙②検証指標の KPI だがアウトプット指標になっている。アウトカム指標の方がよいのでは。アウトカム指標にすると数値にしにくいとは思いますが、少し気になった。

【都竹市長】 数値目標の考え方は難しい。アウトカム指標が理想ではあるが、アウトプットとアウトカムの関連性が確立するまでに至っていない。観測指標を KPI とする自治体が多いが、人口増や人口割合などを目標に掲げたとしても市の取り組みでは簡単に変わるものではないと思っている。しかし、その数字は常に意識して見ておかなければいけな

い数字であることは確かであり、そうした意味からも分けてある。非常に悩ましいが、ここはあえてアウトプットとしている。

【会長】 観測指標を別に分けてあるというのは非常によいと思う。

【B 委員】 事業実施には財源が問題になると思う。前回の説明を聞いた中では、ある程度安心だと思っているが、先日、岐阜県内自治体の財政力の指標を見たら飛騨市は下の方だった。どういうものなのか。

【都竹市長】 財政力指数だと思われるが、確かに飛騨市は恐らく県内の市では一番下ではないかと思う。日本の自治体ではそうした点をカバーする地方交付税という仕組みがあり、必ずしも財政運営とはリンクしない。借金と貯金のバランスや経常的にかかる費用がいくらあるのかという問題。どちらかというとな財政の余裕度は、借金返しと貯金のバランス、そして入ってくるお金の安定度による。飛騨市の場合は税収が少ないことから財政力指数は低いが、その分、国からもらえる地方交付税があって安定している。すごくお金を使うということがなければ、なんとか維持していけるかと思っている。そういうメカニズムであることを知っておいてほしい。

【会長】 つづいて、③の説明を事務局にお願いする。

【土田係長】 別紙③について、説明。

【会長】 別紙③について、ご意見ご質問をいただきたい。

【G 委員】 現在 COP25 が開催されており、世界は石炭火力発電所閉鎖の動きだが、日本は石炭火力発電所に力を入れており、やり玉に上げられている。また、EU が 2030 年までに温室効果ガスを 50%減らすと宣言したが、温室効果ガスを減らす以上に吸収源対策をしなければならないのではないかと考えており、森林整備をしっかりとやっていくことが大事だなと思っている。2・3 年の国の動きを見てみると、森林環境譲与税を始め、かなり森林整備に予算がついている。その中で、3 ページの「広葉樹を活用したまちづくりの推進」という事業は非常に的を得た先進的な取り組みだと思う。ぜひ続けていただきたい。

森林アカデミーと連携した森林技術者の確保について、2014 年にドイツのロッテンブルグ大学と森林アカデミーが連携を結んだことから、森林組合もロッテンブルグ大学に毎年研修に職員を派遣している。先週も一週間ほどロッテンブルグ大学からインターンシップを受け入れたところ。人材を集めるという点では、プラスアルファで地元企業に就職すれば海外研修も実施できるというような PR ができるとありがたい。ドイツではなりたい職業 No.1 がフォレスター（森林技術者）だと聞く。ぜひ連携していければ。

- 【都竹市長】 医療介護等もそうだが、就職したときにお金を出すことはあるが、魅力的なポイントの追求が出来ていなかったかもしれない。他事業者でも就職したくなるような魅力づくりを大きな文脈の中で考えてみたい。早速検討させていただく。
- 【会長】 人数に限られる分、一人ひとりの技術が向上すれば生産効率が上がる。無いものねだりよりも、今の人材でどのくらい上がるかという言う点で非常に重要。
- 【G 委員】 来年の岐阜のねんりんピックは、実行委員をさせてもらっている。年齢が高いので飲み屋が潤う。早いうちに飲食店組合と連携したPRや飛騨市ならではの料理など検討してはどうか。
- 【都竹市長】 ねんりんピック関連メニューや関係者割引など考えてもらえるとよい。非常にいいご提案をいただいた。
- 【F 委員】 4Pの産直施設関連の事業だが、既に動きがあり、宅配業者が農家から商品を集め飲食店あるいは宿泊施設に配送するという新聞記事を1ヶ月前くらいに見た。古川でも実際できないか話し始めている。これができれば場所を設定しなくても物が動いていくので面白いと思う。動きについてはまた報告させていただく。単価の問題ではないかと思うので、市からの支援があるとよいかもしれない。
- 【都竹市長】 勉強させていただきたい。うまく絡ませることができればと思う。
- 【E 委員】 4点ある。
2Pの「新たな事業・商品・サービスを創造する事業者の応援」ということで、市では10月から故人の終活支援サポートをされているが、商工会では、これの企業版ということで事業承継支援を積極的にやっていこうと考えている。ぜひ市の方も積極的に関与していただき、サポートしていただきたい。
3Pの「思い出に残る観光地づくり」ということだが、飛騨市の観光Wi-Fiは、飛騨市の街中エリアは十分だと思う。あとは、接続しやすいかどうか。
4Pの「飛騨市観光大使との連携による市の魅力PR」の件だが、ちょうど4年前に門倉有希さんという観光大使を活用されて市のプロモーションビデオを撮るということをした。その後どうなったかわからないが、観光大使は実際のPRとして有効かどうかというと、非常に疑問がある。その時は100万円くらいの予算をかけたはず。もう少し考えていただければと思う。
10Pの「プログラミング教育環境の整備」とあり、ハード、ソフト両面の準備をされると思うが、現状とこれからについて伺いたい。
- 【都竹市長】 事業承継は何らかの形で加えられるよう検討したい。
観光Wi-Fiは、つなぎ方の問題があり、最近は自動的に繋がるというアプリもあり、そうしたものに対応できるようにしなければいけないと考えており、スピード等も含め検証したい。

観光大使だが、これは色々なタイプの方々が観光大使になっているため、若干苦慮しているところがある。市民の方も観光大使になっているパターンもあり、市長就任後からは絞っているが、観光大使の皆さんには活躍してもらわなければならないと思っているので、この人こそはという方に活躍してもらう予算を組まなければならないと考えている。最近では、神岡実希さんという女優は、実際に一生懸命やっただけでいるが、今は手元に予算が無い状態なので、例えば飛騨市に来ていただいて何か事業をするときに支払える謝礼を準備しておきたい。昨年度では、NHK連続テレビ小説「さくら」の脚本家である田淵久美子さんに観光大使に就任いただいたことで、市のためにあれもこれもとやる気になっていただいている。こういうことは大事にしていきたい。たくさんみえる観光大使のなかで、想いを持って活躍してくださる方をある程度絞り込んで活動していただくという形でまずは始めたい。

【沖畑教育長】 プログラミング教育は小学校で4月から始まる。現在、教材については十分ではないことから整備を進めるとともに、指導していく教員の資質を高めるためにも核となる教員を育てながら広げたい。中学校においては、ハードの更新に伴ってこれからのことを考えて整備したい。

【会長】 プログラミングは心配。実際にプログラミングをしたことがない学校の先生方が本当に教えることができるのかということ、日本全体の問題として思っている。仕事でプログラミングされている方を登用した方がよいのではないか。

【E委員】 この授業は学校のパソコンを使用するのか。

【沖畑教育長】 学校は全てタブレットを整備する。

【会長】 岐阜大学の情報系の大学院生も小学生なら十分教えられるかもしれない。

【沖畑教育長】 飛騨神岡高校と連携していきたいと考えている。

【B委員】 事務局の説明で神岡城の話が少しあったが、今、城ブームであり、名古屋城では天守閣の木造再建の話もある。県内に天守閣がある城はどのくらいあるのか。というのも、糖尿病デーにブルーライトアップするという運動があり、神岡城でも実施したらどうかと思った。城としての価値があるかどうかだが。

【都竹市長】 ライトアップはすぐできる。あの城は模擬城で、歴史上無かったもので資料館となっている。ちょうど山城の時代なので、若干のものはあったと思われるが、天守は無かった。そのものとして文化財的価値はないが、町のシンボルとしてあり続けてきた価値はある。ライトアップはよいと思う。

【B委員】 障がいのある方が病院から在宅に帰られるケースがあるが、住宅改修や福祉医療具の使用があり、現在はケアマネが手続き等をしてきているが、その際に理学療法士の意見をいただけるような制度があるといいと思う。医療保険、介護保険の制度上では、

そういった仕組みがないのが現状。手すりやイスの高さなど指導をいただければ思っており、また、別の会議でもお願いさせていただこうと考えている。

【柚原部長】 医療保険の点数等で、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）が退院される患者に住宅改修の指導をすることはないが、飛騨市民病院の例だと、相談に乗られてアドバイスをする事例はあるが、お金は発生していない。検討したい。

【B委員】 一度退院された方が使えるような制度だとよい。

【C委員】 ケアマネが手配して理学療法士に家を見に来てもらい、住宅改修の助言をもらうことはある。また、住宅改修を行う建築士が、こうした知識を勉強されている。研修会等はあるが、こうしたことも市として一緒に関わっていただけたらよいと思う。

5Pの「あんな飛騨市づくり」の中で、介護人材不足対策として多く実施していただいており感謝している。ケアマネ不足も課題として私たちも捉えており、ケアマネの資格が始まった頃に取得したケアマネが高齢化してきており、その後の資格取得者が増えていない。こうした事業は非常に励みになる。

12Pの「ごみの減量化の推進」について、11月の終わりに不要な衣類を集めるイベントをやってみえたが、月1回なのか継続なのか意図がわからなかった。ポイントカードを押してもらって、貯まるとゴミ袋がもらえる仕組みだったが、今後の取り組みの方向や、拡充の24時間資源回収ボックスについて、コンテナ追加の方針もお伺いしたい。

【大坪部長】 最初に言われたものは、「お出かけリサイクルセンター」と言って今年度始めた事業。リサイクルセンターまで行けない方のために4地区で実施し、あわせて衣類の回収も実施した。2ヶ月に1回程度で実施したいと考えている。24時間資源回収ボックスは、宮川・河合地区で試験的に設置を考えており、需要があるようであれば本格設置したい。古川・神岡についても需要を見ながら検討していきたい。

【会長】 ここで一旦休憩とする。

—休憩—

【会長】 ここで委員の皆様からお一人ずつご意見を頂戴したい。

【J委員】 2点申し上げる。

事業承継という部分で十六銀行としては、1年間で社員一斉にM&Aの試験を受けるなど力を入れており、経営承継支援室という専門部署もある。対象は法人格のみで、一定のフィーをいただく形になる。

もう1点は、あくまでも商品PRではないが、地方銀行初の試みで10月から遺言代用信託を始めた。亡くなられた場合、銀行では預金を封鎖するが、あらかじめ信託さ

れた分は親族に窓口でお支払いできるというもの。医療機関の費用やご葬儀の費用について、遺族の急な負担を軽減することができる。その中で、昨今、地域住民が自分の財産を公共のために寄付をされたいという声が大きくなっている。通常だと遺言状を作成するなどの手続きと費用が発生するが、この制度を活用していただくと、そうした手続きが不要になる。そこで、寄贈先になっていただける地方公共団体を拡充したいと考えており、現在提携しているのは岐阜県と岐阜市、高山市、岐阜大学、桑名市である。

市にとっては亡くなられた方の思いを受け取っていただき、役立てていただけるのではないかと思う。

【I 委員】 別紙③4 Pの「飛騨古川まつり会館を活用した企画展等の開催」についてだが、シアターを活用して夏休み等限定で子ども達向けの映画会を実施したらどうか。

6 Pの児童生徒の不登校と成人の引きこもりのケアの政策を入れていただきありがたい。ただ単に学校が嫌というものではなくて、考え方が賢い故に合わないというタイプの子もいる。子ども達には、もっと広い世界を見てもらえるような海外研修などが実施できたらと思う。

11 Pの歴史・文化等の後継者育成についてだが、河合では伝統芸能の盆踊りを運動会や学習発表会で親子で踊るという演目があり、2年程前までは保護者対象の盆踊り練習会があったが、現在無くなった。せっかく伝統芸能を子ども達が受け継いでいるのに、親が踊れない。子ども達と合わせて保護者も知る機会を作ってほしい。

最後に、小鷹狩城と小雀獅子の関係も研究を進めていただければと思う。

【H 委員】 資料を見たときに「人口減少先進地」という言葉に衝撃を受けた。減っているにも関わらずこんなに新規事業が出来るのかとも感じた。

資料①25 Pの「将来像実現のための基本姿勢」の「対話と協働」について非常に力強く感じている。

資料③8 Pの遊び場の開放やベビーベッドの設置などの子育て環境整備はぜひ進めていただきたい。

以前、市政ゼミナールの際に、製造業が飛騨市の主な産業だと聞いた。あわせて、農林畜産業の振興も大いに力を入れてほしい。

最後に、スタディサポーター事業もぜひ進めていただきたい。

【G 委員】 前に財政調整基金の話をさせていただいた。合併基金も10億弱残っていると思うが、市の財政規模から考えると基金が多いと思う。せっかく市長が県職員の間に俯瞰して見ていたと思うので、大きな予算をかけた事業を実施してもいいのではないかと。

人手不足について、各企業でも一生懸命取り組まれており、市は手助けするという感覚でよいのではないかと考えている。

最後に、PRになるが、組合職員の塩屋さんのプロボクサーデビュー戦がある。ぜひ

応援をお願いしたい。

【F 委員】 個人情報という言葉が出かけてから、権利というか個人に目が行き始めている。私は地域を動かすのは組織を動かすことだと思って進んできた。ともすると行政、あるいは農協の責任というように話が行ってしまうと、行政サービスをよくしなければならない。一方で、そうすると組織が弱体化するという裏腹な面がある。

人が減っていく中ではやむを得ないと思うが、組織がしっかり動く形で行政サービスをしていかないと、後々何かをしようとした時に身動きが取れなくなるのではないかと心配している。地域は地域として責任を残しながら、政策を実施する必要があると思う。

【E 委員】 行財政改革では、事業の見直しと職員定数の見直しをされるとのことで、職員定数については、おそらく削減に向かっていくのではないと思うが、人口減少による問題により、実施する事業が増えている中で、職員を減らすことはマイナスだと考える。適材適所もあるが、逆に増員が必要な部署もあるのではないかと。また、異動についても5年など長いスパンで腰を据えてやってもらい身になるようにしたらどうか。人事というものは2年から3年サイクルが基本だと思うが、全ての部署ではなく、部署によっては5年などのスパンで仕事をしてもらえたらと思うので、ぜひ検討を。

【D 委員】 防災にかかる予算は保険に入るようなものだとお話ししたことがあるが、市では財政状況が厳しい中で、防災インフラの強化を掲げ、ソフト・ハードの両面で着実に実施されていることに感謝し、来年度からの重点項目に大きく期待したい。

飛騨市の高齢化、人口減少は日本の最先端に行く状況で、大変大きな課題ではあるが、この課題を止めるカンフル剤はないと思っている。このことを受け止め、決して背伸びするのではなく、身の丈にあった事を粛々と実施することが最優先事項である考える。そしてこの体制こそが、被災時に底力を発揮すると考えている。

大変きめ細かい政策を打ち出されているが、中でも、終活支援体制の整備事業については、時代の変化に敏感に反応し的を得た事業であると感じている。

私自身、間もなく高齢者の仲間入りとなるが、この小さな飛騨市に骨を埋めることは悪くないと感じている。

【C 委員】 前にも言ったが、ご家庭には高齢者だけでなく、引きこもりの方がみえたり、子育てしながら介護をしている方など、大人から子どもまで様々な方がいる。ケアマネをやり始めた頃は、高齢者だけに特化したサービスだったが、富山型デイサービスのようには、これからは介護保険制度に捉われない部分も市に支援してもらい一緒にやっていけたらと思う。

事業承継とあったが、お店だけではなく、病院も事業承継がある。古川町民としては、開業医の高齢化もあり医師不足について危機感を持っている。

健康面では、高血圧も県内ワースト1位ということで深刻な問題だと思う。しっかり

伝わるような取り組みをやってほしい。

市職員のストレスケアもあるとよい。

【B委員】 市職員のストレスケアの話が出たが、教員のストレスケアについて県がかなり進んでやっている。小中学校の教員は立場が県職員だが、市教育委員会としても教員を大事にしてほしい。

ふるさと納税について、パンフレット等がない。高山市はある。色んな人に見てもらうためにも作成してはどうか。

県の事業としてねりんピックを市でも実施されるが、東京オリンピックの聖火は飛騨市を通らないのか。

【A委員】 区民の苦情は、まず区や連合区で受け止め、それに見合わないものは市にお願いしているが、市の対応は大変良くてありがたいと思っており感謝している。

また、市では、国や県に対して市としての揺るぎない信念のもとしっかり対応されているのを見ると、安心して住んでいけると感じた。

防災士の養成講座も、高校生が3人ほど受けるなど、若い方の動きも出てきており、ありがたいなと感じている。

【都竹市長】 J委員からご紹介いただいた事業承継の件は、大きな政策として取り組んでいきたい。信託の話も早速遺贈先の自治体に加えていただけるようにお話させていただきたい。

I委員からの飛騨古川まつり会館のシアター活用の件は、何度かお話したことがある。今度、指定管理者が飛騨市観光協会になるので、どういう活用ができるか相談していきたい。

海外研修の話は、今は台湾新港郷との交流の関係で高校生の海外研修はあるが、出来れば拡充していきたい。ふるさと納税の寄附先でお願いするということもある。

伝統芸能については、親が意外と出来てないというのは確かにあるかもしれない。学校ではふるさと教育でやっている。大事な切り口なのでPTAと相談しながらそうした機会も作れたらと思う。

小鷹狩城は素晴らしいものが出てきている。山城は順次発掘しており、一通り終わったところで国史跡の申請をするが、活用の計画も文化庁に出さなければならない。発掘の成果を知ってもらうような機会づくりは視野に入っており、今後やっていきたい。

H委員からは様々なご意見をいただいた。まず種をまかないと芽が出ない。なかなかうまくいかない事業もあり、改良を加えながらやっており、引き続き頑張っていくたい。

G委員からのご意見だが、財政調整基金は60億円から65億円を維持するという方針を立てている。飛騨市の規模だと20億円もあればというところで、全国でもトップクラスである。しかし、交付税の変化による影響を受けやすい自治体なので財政防衛として備えている。合併基金はスポーツ関係の施設に5年間かけて充てる予定。プロボクサーのデビューの話は伺っており、市でも応援したい。

F委員からのご意見として、地域が地域として、草刈や水路の保全などやってもらうべきところはやってもらわなければいけない。全部誰かがやってくれるとなると誰もやらなくなってしまうという面も他方である。バランスのとり方が非常に難しい。誰かが金払えばやりますよとなったら、自分で保全する文化が切れてしまう。そんな中で、地域でやっていただくことはしっかりやっていただくということで、いろいろご批判があっても維持しないと取り返しがつかないこともある。

E委員からのお話で、職員数はこれ以上の削減は難しいとして若干増やした。しかし、人件費総額がある中で、会計年度任用職員制度改革で人件費が上がることもあり、若干削っていかざるを得ないと考えており、大変苦慮している。全国の自治体が苦慮しており、国の支援策を注視している。いずれにしても、増やすのも減らすのも難しい。異動については、できれば5年じっくり腰を据えて仕事をしてもらうこともよいが、育成という面では、若い時は3年くらいで異動し、中堅では長くというように考えている。人事は、部分最適が全体最適にならず、ベストではなくベターでやるしかないと考えている。

D委員からは総括的に市政の評価をいただき、骨を埋めても悪くないというのは最高のお褒めの言葉をいただいたと思っている。

私自身も人口減少は受け止めるべきものだという考えの中で、どうやって市民が心豊かに安心して暮らせるかということをテーマとしてやっている。

余談だが、先日、大関屋のおばあちゃんとFabcafeでトークイベントを実施した。おばあちゃんは95歳で、「人は全国どこでも減っていき、その中で何を楽しむかが大事」だとおっしゃられ、高度経済成長期から現在の人口減少まで見てこられた中での言葉として今年一番心に残っている。こうした思いを持って今後もやっていきたい。

C委員からのお話で、ケアマネをやっておられる中で、家庭の中の色々な課題を見ておられる。介護は介護、障がいは障がい、貧困は貧困というように切り分けるものではないと私も思っている。しかも課題の出方が複雑だということを痛感している。ジャンルにこだわらず、弱い立場の方を助けるという思いで、ありったけの材料をどう投入できるかを考えることが重要。今後の飛騨市の市政スタンスとして維持し、支援すべき弱い立場の方が何を求めてみえるかということから逆算し、やるべきことを決めていきたい。

開業医の支援は言われる通りで、今年度から支援を始めているが十分でないのは事

実。地域枠制度もあるが対象が病院ということで、市だけではなく国全体で考えなければいけない。国への訴え方も含めて検討したい。

市職員のストレス問題は、人事意向調書を見ると、ストレスの出方が複雑で、仕事が多くても不満を感じない職員もいれば、それほど多くない仕事量でも不満がある職員もいる。原因を辿ると苦手な仕事や人間関係。そういう意味では非常に難しい問題であり、一回やったら終わりではない。仕事量については、事業を見直す中で終了する事業も検討するよう言っている。こうしたことも大事であると思っている。

B委員からの小中学校教員の件は、引き続き取り組んでいきたい。

ふるさと納税は今年特に好調で、前年比 2.5 倍であり、県内でトップの可能性が高い。昨年は 4.6 億円で、今年はこのペースだと 9 億円までいくかと思う。12 月が年間の 4 割を納税いただいている。今はほぼインターネットで納税されており、ネット対策を徹底している。引き続き周知を呼び掛けていただくことが大事。

聖火のルートは、県で決めており市町村の意向はない。飛騨地域では高山市と下呂市だけだがやむを得ない。

A委員からのお話で、飛騨市の区のシステムは、全国に冠たる小規模多機能自治ということで非常に進んでいると思う反面、区長の皆様にかかる負担は非常に大きく、大変ご苦勞をおかけした。しかし、このシステムは崩すと二度と作れないので、引き続きお願いしていきたい。

【会長】

3 年任期の最後ということで、総括のようなご意見もいただき感謝申し上げます。

この総合政策審議会自体が非常に珍しい仕組みで、通常であれば総合計画等を策定する際に臨時で開くのが一般的な形。また、そもそも 5 年間の計画を作るのではなく、指針として方向性を示すだけとし、毎年の事業をオープンにして審議をする自治体は他には無く、非常によい仕組みである。

更に、委員皆さんが現場からの声を届け、それが市の事業にしっかり反映している点も非常によい。この審議会があるからこそ市政もしっかり回っていると感じており、いい政策が市としても出来ている。この審議会の仕組み自体が良い取り組みである。その会長は大役だったが光栄であった。3 年間の感謝を申し上げ、これをもって本日の審議事項を終了する。

5. その他

無し

6. 閉会【湯之下副市長】

平成 29 年度から延べ 9 回の会議を開いた。委員の皆様にはお忙しい中、熱心なご審議に感謝申し上げます。また、会長におかれては、審議会進行だけでなく時間を割いてご指導いただき感謝申し上げます。

私共も色んなご意見を聞こうとしているが、十分ではないことがあり、若干偏りもある。その中で各分野、現場で活躍されてみえる方々の生の声を聞きたいということでお集まりいただいた。３年前に皆様に委員就任をお願いする際、どんな些細なことでもいいのでご意見を聞かせていただきたいとお願いしたことは今も変わっていない。

そうした中で、今ほど会長がおっしゃられたように、皆様から頂戴したご意見、ご提言が確実に新しい事業あるいは既存事業の充実につながっていることは、職員も非常に喜んでいるところである。

大きく環境が変化する中、私共は状況を的確に把握し、必要と思われる対策を変化に合わせてし続けなければいけないと考えている。その意味で、「元気であんきな誇りの持てるふるさと飛騨市」実現のために努力してまいりたい。

委員の皆様におかれては、大変ご尽力いただいたことに改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも飛騨市政に対しお力添えを賜ることをお願いし、閉会の挨拶とさせていただきます。